

私は植物を育てている。どれも花や実をつけない観葉植物だ。バジルも育てているが、ほとんど収穫しないので（なぜならあまり料理をしないからだ）、私の中での位置づけは観葉植物である。リビングの窓際に三つの鉢が並んでいる。ピレアペペロミオイデスは数年前に草津にあるおしゃれなガーデンショップで購入し、カラテアは昨年、大阪の商業ビルで無料で配っているのを並んでもらった。バジルが一番最近で、今年の初夏に地元の産直市場で数百円で手に入れた。

ベランダにも植物はいるが、それらの管理は夫がしている。そのほとんど夫がホームセンターで購入した多肉植物たちだ。その中の一つ、グリーンネックレスだけは、私が購入したものだが、外に出したので、夫の管轄になつた。私は視界に入るものしか、意識に入らない人間なので、外に出したとたんその存在を忘れる。気候の良い季節に、存分に日光を浴びておいで、と外に出たまま存在を忘れ、盛夏や真冬を迎える、あえなくお亡くなりになつた鉢がいくつもある。無精の私を見かねた夫が、私が購入した植物たちにも水やりをしてくれるようになつた。

といつても、私の管轄内の三鉢ですら、上手に育てることが出来ない。

ピレアペペロミオイデスは見栄え悪く徒長し、カラテアは今は元気だが、時々水不足でしょんぼりと葉が垂れていることがある。バジルの一部の葉っぱは黄緑色から茶色に変色し、食べられないほどではないが、固い。

水やりが複雑なのである。まだ暑さのひかない九月現在、ピレアペペロミオイデスは地面が乾いてから一日二日してからたっぷりの水を、カラテアは土が乾いていればすぐに、バジルは毎日、水やりが必要だ（と勝手に解釈しているが、本当のところは分からない）。おそらくそれに加えて適切な栄養剤を与えていないことが原因であろう。

愛情がないわけではないと思う。植物が死ぬと悲しいし、落ち込む。今年の冬に、外に出したまま忘れて、いつの間にか凍死したハーブの一種（名前がどうしても思い出せない）に気付いた時には、何とか蘇らせられないかと、ネット情報をあさり、残つた茎を水

耕栽培しようとしたが、蘇らなかつた。屋内で育てていたカラフルな花？ 実？ のようなものを付けていたコケ植物（今年の五月に花屋で購入したが、こちらも名前が全く思い出せない）は、一泊の旅行後に、鮮やかな緑からどす黒い緑色に変わり、慌てて鉢ごとしばらく水に浸けてみたが無駄であった。

植物を育てるのに向いていないかもしねない、うすうす気づいてはいるが、園芸店でかいらしい植物を見るといつも購入してしまう。そして枯らす。

責任のない愛情しか与えられない芯の冷たい人間なのだ。枯れた植物を前に自らの人間性を見る。

先日、久しぶりにベランダで洗濯物を干した。夏は、急な雷雨に備えて屋内干しにすることが多い。現在は夫の管轄下にある、グリーンネットレスの鉢をふと見ると、夫が育てているエケベリアが同居していた。一緒に洗濯物を干している夫に聞くと、知らん、勝手に増えた、とのことだった。エケベリアの一枚の葉が、グリーンネットレスの鉢に落ちて、そのまま成長したらしい。植物は強い。私はその強さにあっけにとられる。植物を育てる、その考え方 자체が人間の驕りではないか。そう思いつつ、私は今日も水やりに迷走する。